【日本気象協会からのお知らせ】

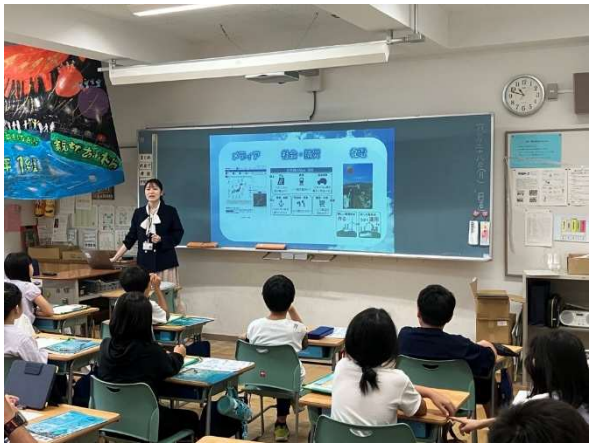
2026 年 11 月 9 日
一般財団法人 日本気象協会

小学校 2 校でキャリア教育の出前授業を実施

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：守屋 岳、以下「日本気象協会」）は公益事業の取り組みとして、2026 年 9 月 9 日（水）に私立帝京大学小学校で、9 月 28 日（月）には東京都の港区立笄小学校（こうがいしょうがっこう）で出前授業を実施しました。なお、本出前授業は「キャリア教育イベント※」による取り組みです。



帝京大学小学校での出前授業


港区立笄小学校での出前授業

出前授業では、日本気象協会の気象予報士が講師を務め、帝京大学小学校では小学 5 年生、港区立笄小学校では小学 4 年生を対象に「気象予報士の仕事」と「天気予報を作ってみよう」の 2 つのテーマで授業を行いました。

「気象予報士の仕事」では、天気予報の役割と気象予報士の業務を紹介しました。また、キャリア教育の観点から、仕事を通じて感じるやりがいや苦労、うれしかったことなどについて、講師自身の体験を交えて話しました。
「天気予報を作ってみよう」では、天気図や、天気・気温の予測などの気象データをもとに、グループごとにテレビの天気予報で使う放送用原稿を作成しました。その後、希望した児童が気象キャスター役となり、完成した原稿を使って天気予報を発表しました。

そのほか、日本気象協会独自の豪雨・暴風疑似体験学習アトラクション「HERASEON（ヘラセオン）」も実演しました。児童たちは、画面上で豪雨や暴風を疑似体験しながら、気象や防災について楽しく学びました。

今回の出前授業が、気象情報や防災情報への関心を高めるとともに、児童が将来の職業について考えるきっかけとなれば幸いです。日本気象協会では、今後も気象・防災に関する知識の普及活動を通じて、次世代を担う子どもたちの学びを支援してまいります。



気象キャスター体験の様子


「HERASEON」体験の様子

※「キャリア教育イベント」
主催：帝京大学小学校・港区立笄小学校
協力：株式会社 ポプラエデュケーション

以上